

【概 要】

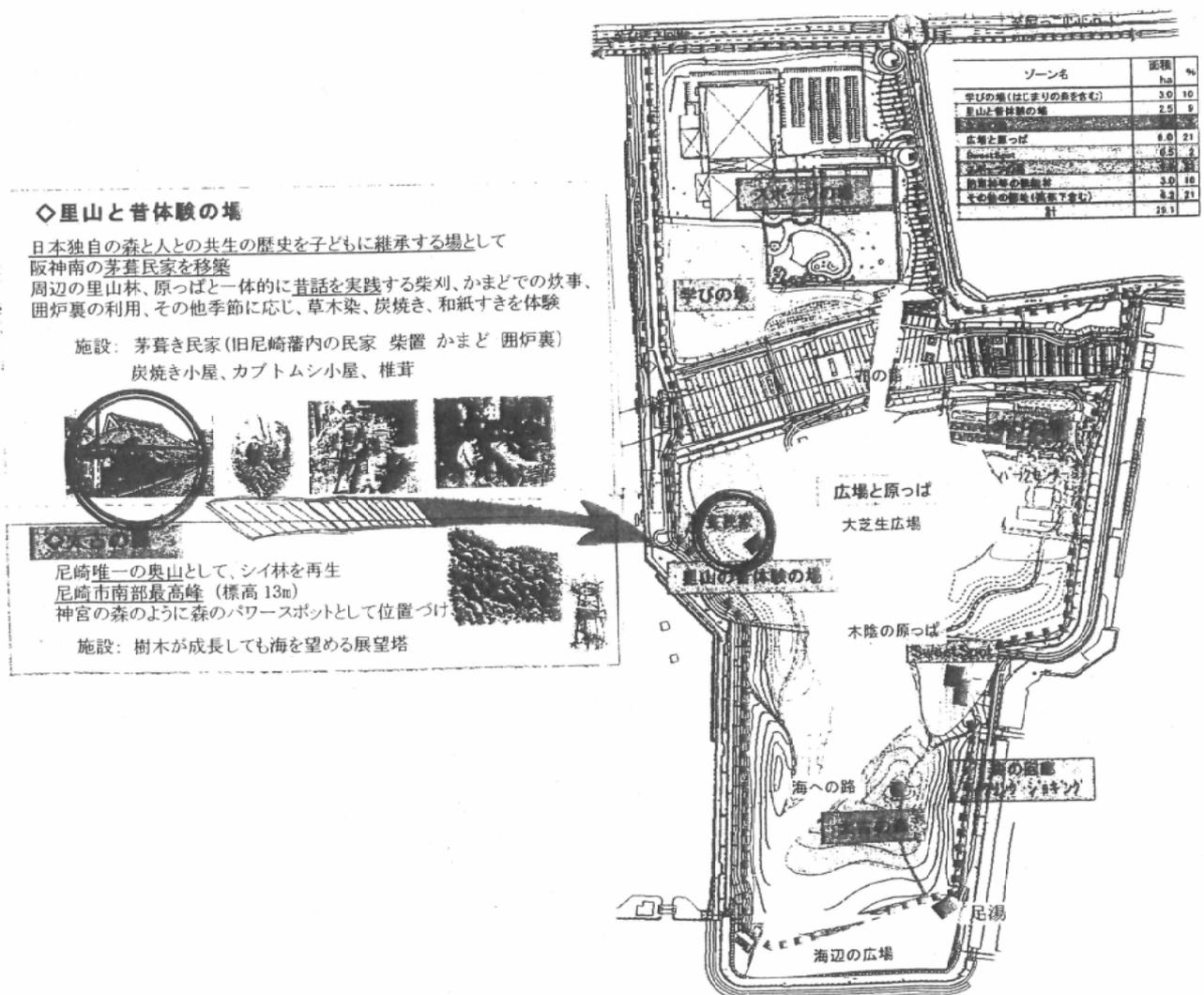
小阪家住宅について

江戸後期(18世紀中期～19世紀初頭)建築の木造平屋建 表六甲最古と推察される茅葺民家。尼崎藩領に属する三条村の旧家で、庄屋も務めた小阪家の住宅。

—現在までの経緯—

- ・ 三条町9-3に所在しており、平成6年3月移築を前提に、市指定文化財に指定。
- ・ 平成7年1月阪神・淡路大震災により被災し全壊の判定を受ける。
- ・ 当面の移築は断念し、図面を取り、解体・部材保存。一時保存先として(株)淀川製鋼所 所有地(国指定重要文化財 旧山邑家住宅敷地内)に平成8年5月から平成11年5月まで保存。
- ・ 平成11年6月から現在に至るまで、陽光町の湾岸下倉庫で保存。

■ 尼崎の森中央緑地



森の目標像イメージ（案）：将来守（森）人※が集う「ひょうご集いの森（仮称）」

- 都会の中で、実際に森とふれあいながら、
- ①森、自然など地球環境の大切さを学ぶ
 - ②都会の中の森を楽しむ
- をコンセプトとして森づくりを進める

※守（森）人：森の大切さを知り、森を楽しむ人

森、自然など地球環境の大切さを学ぶ

- ・森と人との共生した日本の独特の歴史・文化の学びと継承の場
- ・ドイツの Waldkindergarten、メルボルン子供植物園のように、五感を使った遊びと学びによる自然・環境教育の実現
- ・各種活動団体と連携した「森のお仕事」の場の実施

◇学びの場◇

- ・小学生、Kids、一般を対象とする環境学習センター
- ・森全体の情報センター、森構想の市民活動拠点
- ・再生可能エネルギー体験
(太陽光、屋上緑化、薪ストーブ=バイオマス)



施設 整備済：パークセンター、みなの花野、苗圃、はじまりの森
計画：キッチンガーデン、第2学習棟

その他（企業連携）

- ・構想区域内の企業と連携し、環境、ものづくりをテーマに、学習プログラムを実施。将来、中央緑地がコアとなり、エリアとして、「森とものづくりのEcomuseum」を目指す。

◇里山と昔体験の場

日本独自の森と人との共生の歴史を子どもに継承する場として
阪神南の茅葺民家を移築
周辺の里山林、原っぱと一体的に昔話を実践する柴刈、かまどでの炊事、
囲炉裏の利用、その他季節に応じ、草木染、炭焼き、和紙すきを体験

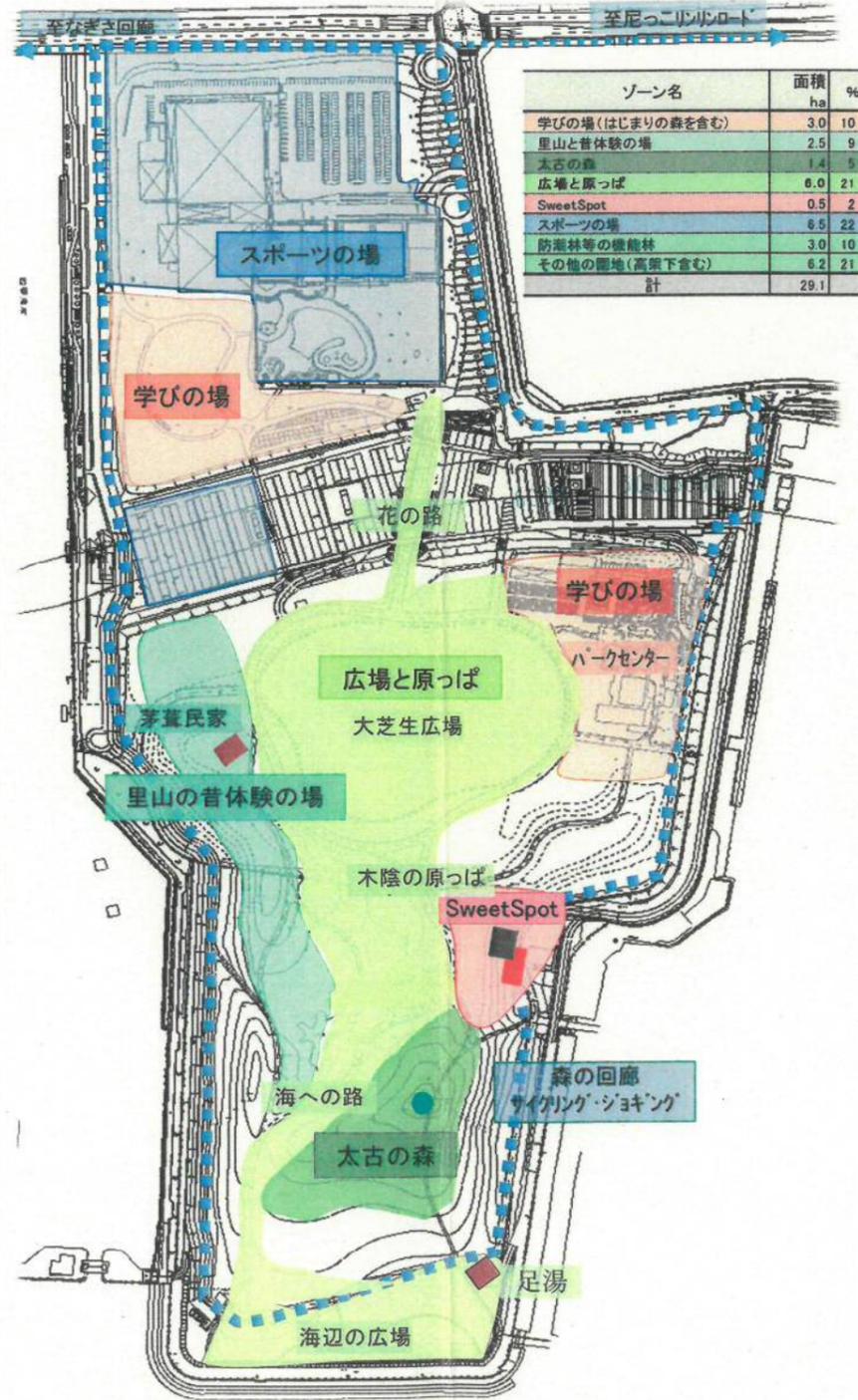
施設：茅葺き民家(旧尼崎藩内の民家 柴置 かまど 囲炉裏)
炭焼き小屋、カブトムシ小屋、椎茸



◇太古の森

尼崎唯一の奥山として、シイ林を再生
尼崎市南部最高峰（標高13m）
神宮の森のように森のパワースポットとして位置づけ

施設：樹木が成長しても海を望める展望塔



東北支援 森のプロジェクト(東北の公園等での森の再生への支援)

- ・東北のたねの里親：東北の種子を預かり、苗木に育て東北に帰す
- ・森づくり人材交流：(アマフォレストのメンバー等の派遣)

都会の中の森を楽しむ

- ・スポーツの場
- ・開放的な森
- ・大芝生場のイベント活用
- ・森のブランド化に向けたスイーツ、バイオマスの取り組み

○スポーツの場

- ・スポーツの森、多目的広場
- ・森の回廊(サイクリング・ジョギングコース)
- ・パーク&サイクルライド拠点化(レンタサイクル)

イベント 市制100年記念ハーフマラソンの開催
東京オリンピック合宿誘致

○広場と原っぱ

大芝生広場(H27開設 3.0ha、最大収容人員2万人)
県立都市公園最大級のオープン・フラットな芝生広場で、野外音楽会、スポーツ、野外マルシェ等様々な利用が可能。

イベント

- ①Music: 野外音楽会
- ②アート: 学生ビエンナーレ、ファッションショー
- ③マルシェ: 森ののみの市、フリーマーケット



木陰の原っぱ

大芝生広場と一体化した木陰のある明るい広場



海への路

大芝生広場と海辺の広場を結ぶ草はらと疎林の路
春の花、秋の七草等を体感、キフチョウ等蝶の舞う路



海辺の広場

ハマコウ・チガヤ等海浜植物による草原(尼崎の海岸の特産品だった尼いも栽培も検討)



将来、再生エネルギーの拠点を検討

施設：足湯(間伐材による小型バイオマスボイラー)
小型風力発電

花の路(H26秋開設)

スポーツの森との連絡道をガーデンロードとして、コンテストを開催



○SweetSpot

スイーツのまち尼崎をPR。地元とタイアップし、
出向いても欲しいスイーツを考案、森のカフェー
を併設し、売上の一部をレインフォレストアライア
ンス等世界の環境保全と尼崎の森づくりに寄付

施設：モダンハウス・歴史的西洋館
(運営は民間)
旧税関跡に専用駐車場整備



■尼崎の森中央緑地での茅葺き民家等活用案

■概要

尼崎の森中央緑地では、整備開始から10年を経て、県民等の参加による森づくり「地域が育てる森」から、ある程度生長した森から県民が森の利活用等で恩恵を受ける「地域を育てる森」への展開を図ろうとしている。

「地域を育てる森」の大きな柱として、「森、自然とのかかわりを通じて環境の大切さを学ぶ」というテーマを掲げており、茅葺き民家を拠点とした「森と人との共生した日本の独特の歴史・文化の学びや継承」等を実践することとしている。

森、自然とのかかわりを通じて環境の大切さを学ぶ

現在、小学生を中心に実施している森と人との関わりについて学び・体験ができる環境学習プログラムや、森づくりを通じて自然環境の大切さを理解する企業等のCSR活動等を踏まえ、以下の方針のもと、公園利用者が生物多様性の森とのかかわりを通じて森の大切さを学ぶことができるようにする。

■方針「森と人との共生した日本の独特の歴史・文化の学びと継承」

茅葺の古民家などを拠点として活用し、昔の里山の暮らしや生業について体験する。また、森と人との共生に必要な知恵や知識、技術・ノウハウを学び習得することで、次世代に里山の生態・歴史・文化を継承する。以下の事例を参考とする。

<事例>

*紀泉わいわい村(茅葺屋根の四阿)(大阪府)

里山の暮らしや自然体験を通じて、環境問題への関心を深めることを目的に「里山の自然学校」として運営。自然体験や里山の生活体験などの環境教育プログラムを提供。(人が下草刈りや間伐を行い、手を入れることにより、豊かな山が育ち、人はそこに住む動植物と共にその恩恵を受けます。里山とは日本固有のものであり、その原風景はどこか懐かしく心とみまます。そこでの様々な体験は、まさに環境教育の原点となります。HP抜粋)

*美山町自然文化村内の施設 柿の木山 おひさま寺【京都府】

おひさま寺は、築200年前後のかやぶき寺(現在はトタン屋根、26畳の広間と囲炉裏がついた12畳、床の間付きの6畳の部屋)の広いスペースで様々なイベントや体験プログラムを行う。土間には素敵なおくどさん(土のかまど)がある。集落の高台にある山寺をそのまま生かした緑に包まれた静かな空間で素晴らしいリサイクル社会、持続可能な社会、心豊かな社会、相互扶助の社会であった江戸時代の基本をモデルに現代の生活全般を見直したいとのコンセプトで運営している。



おくどさんを使った餅や山菜料理など自然の恵みを味わえる食をテーマとした里山生活体験プログラム

■施設計画(里山と昔体験の場)

<利活用内容>

- ・日本独自の森と人との共生の歴史を子どもに継承する場
- ・周辺の里山林、原っぱと一体的に昔話を実践する柴刈、かまどでの炊事、囲炉裏の利用、その季節に応じ、草木染、炭焼き、和紙すきを体験

<施設>

- ・昔の茅葺き民家(旧尼崎藩内の民家 柴置 かまど 囲炉裏)
- ・炭焼窯、カブトムシ小屋、椎茸
- ・冒険の森





地図データ ©2016 Google, ZENRN 500 m

小阪家住宅移築復元場所（尼崎中央緑地：尼崎市扇町 3 3 - 4）



地図データ ©2016 Google, ZENRN 5 km

部材（石材及び瓦）移動場所（尼崎中央緑地：尼崎市扇町 3 3 - 4）

部材（木材）移動場所（神田組本社：加西市山田長 3 5 9 - 2，神田組国正
資材置き場：加西市国正町 1 9 3 5 - 1）